

現行環境基本計画及び地球温暖化対策実行計画の進捗状況

- 1 進捗状況の見方
- 2 施策の進捗
- 3 重点プロジェクトの進捗

1 進捗状況の見方

【環境指標の進捗】

実績値の環境指標の目標値に対する結果を以下のように示します。

 : 目標値の達成に向けて好調な推移である
  : 目標値の達成に向けて安定した推移である
  : 目標値の達成に向けて低調な推移である

施設	環境指標	基準値 (基準年度)	目標値 (目標年度)	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	環境指標 の進捗
1-① 緑の保全	みどり率	36.0% (平成22年度)	34.1% (令和7年度)	—	33.0%	
	公共が保全する 緑の面積	146.63ha (平成26年度)	149.85ha (令和7年度)	151.92ha	152.63ha	
1-② 水循環の回復と 水環境の再生	浸透施設等の設置 による雨水の浸透 能力	66,828m ³ /h (平成26年度)	【H26～R7の累計】 136,400m ³ /h (令和7年度)	130,560m ³ /h	134,074m ³ /h	
1-③ 都市農地や里山 環境の維持・保 全	生産緑地地区の 年間追加指定件数	7件 (平成30年度)	【R元～R4の累計】 20件 (令和4年度)	32件	36件	
	市民と協働で保全 活動を行う崖線の 箇所数	5箇所 (平成26年度)	8箇所 (令和7年度)	8箇所	8箇所	

※基準年度からの推移は資料編P120～122を参照

令和6年度における主な振り返り

- 緑被調査は概ね5年に1度実施しています。国領町7丁目崖線緑地の公有化など緑地の保全に努めていますが、土地所有者の事情により生産緑地等の減少が進み、みどり率は33.0%に低下しています。【環境指標：みどり率】
- 市や都が管理する公遊園・緑地・緑道・崖線樹林地及び民間が所有する緑地で市が補助対象としている保全地区は152.63haです。【環境指標：公共が保全する緑の面積】
- 河川水源となる地下水の涵養を進めるため、公共施設における雨水浸透ます、浸透トレンチ等の設置を行いました。また、道路等への透水性舗施工や、民間施設においても雨水浸透施設等の設置を進めており、雨水の浸透能力は134,074m³/hとなりました。【環境指標：浸透施設等の設置による雨水の浸透能力】
- 生産緑地の追加申請が4件あり、良好な生活環境の確保と都市農地の保全に努めました。【環境指標：生産緑地地区の年間追加指定件数】
- 8箇所各1団体ずつ8団体と協働を継続し、各団体とも月1回程度活動しました。【環境指標：市民と協働で保全活動を行う崖線の箇所数】

※環境指標と目標値の設定理由は資料編を参照

2 施策の進捗

基本目標1 豊かな緑と水や多様な生物を育むまち

方針1-(1) 緑と水の保全・再生

表 環境指標の進捗状況

▲：目標値の達成に向けて好調な推移である

→：目標値の達成に向けて安定した推移である

▼：目標値の達成に向けて低調な推移である

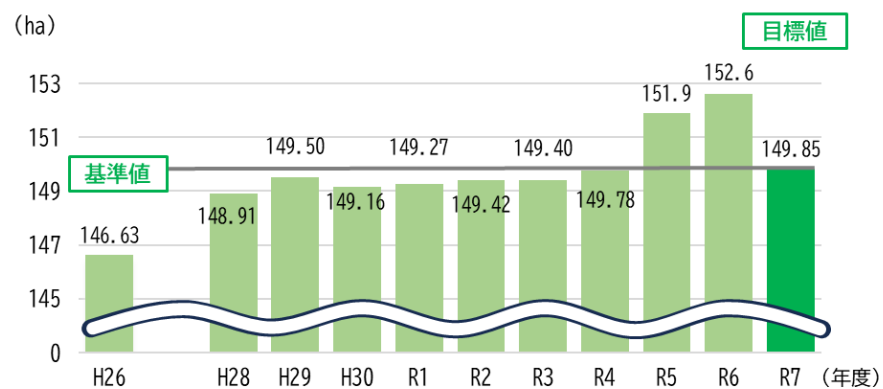
施設	環境指標	基準値 (基準年度)	目標値 (目標年度)	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	環境指標 の進捗
1-① 緑の保全	みどり率	36.0% (平成22年度)	34.1% (令和7年度)	—	33.0%	→
	公共が保全する 緑の面積	146.63ha (平成26年度)	149.85ha (令和7年度)	151.92ha	152.63ha	▲
1-② 水循環の回復と 水環境の再生	浸透施設等の設置 による雨水の浸透 能力	66,828m ³ /h (平成26年度)	【H26～R7の累計】 136,400m ³ /h (令和7年度)	130,560m ³ /h	134,074m ³ /h	▲
1-③ 都市農地や里山 環境の維持・保 全	生産緑地地区の 年間追加指定件数	7件 (平成30年度)	【R元～R4の累計】 20件 (令和4年度)	32件	36件	▲
	市民と協働で保全 活動を行う崖線の 箇所数	5箇所 (平成26年度)	8箇所 (令和7年度)	8箇所	8箇所	→

※基準年度からの推移は資料編P120～122を参照

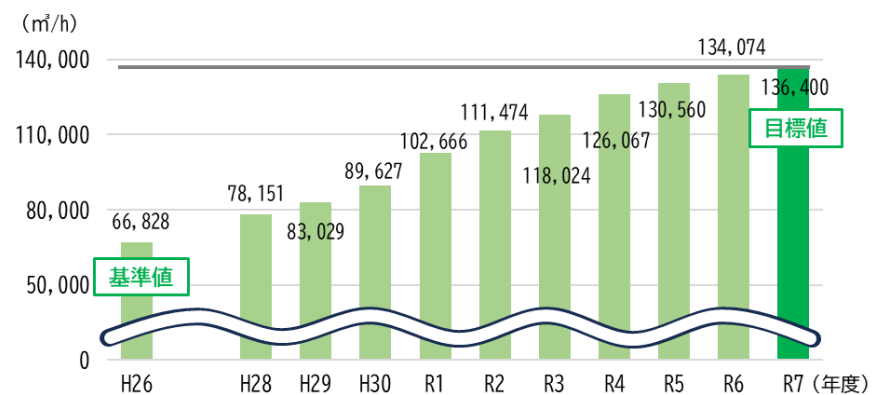
令和6年度における主な振り返り

- ・ 緑被調査は概ね5年に1度実施しています。国領町7丁目崖線緑地の公有化など緑地の保全に努めていますが、土地所有者の事情により生産緑地等の減少が進み、みどり率は33.0%に低下しています。【環境指標：みどり率】
- ・ 市や都が管理する公遊園・緑地・緑道・崖線樹林地及び民間が所有する緑地で市が補助対象としている保全地区は152.63haです。【環境指標：公共が保全する緑の面積】
- ・ 河川水源となる地下水の涵養を進めるため、公共施設における雨水浸透ます、浸透トレンチ等の設置を行いました。また、道路等への透水性舗施工や、民間施設においても雨水浸透施設等の設置を進めており、雨水の浸透能力は134,074m³/hとなりました。【環境指標：浸透施設等の設置による雨水の浸透能力】
- ・ 生産緑地の追加申請が4件あり、良好な生活環境の確保と都市農地の保全に努めました。【環境指標：生産緑地地区の年間追加指定件数】
- ・ 8箇所各1団体ずつ8団体と協働を継続し、各団体とも月1回程度活動しました。【環境指標：市民と協働で保全活動を行う崖線の箇所数】

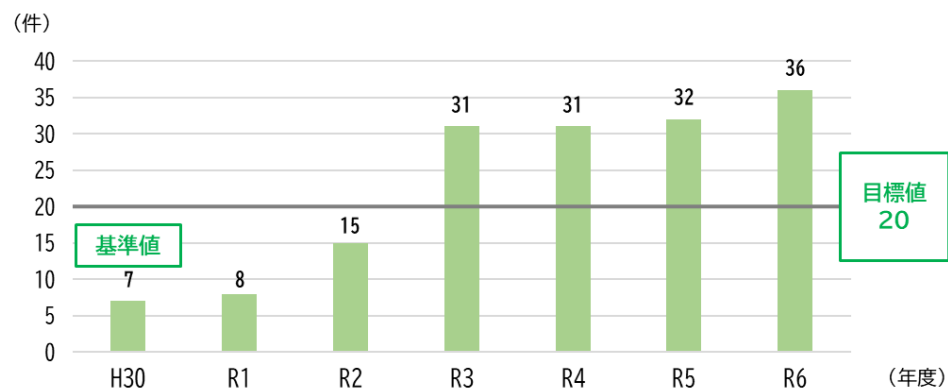
公共が保全する緑の面積



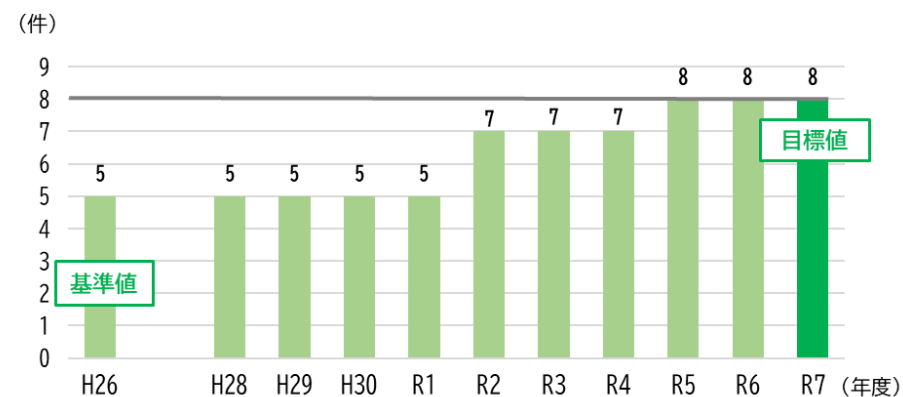
浸透施設等の設置による雨水の浸透能力



生産緑地地区の年間追加指定件数



市民と協働で保全活動を行う崖線の箇所数



方針1-(2) 生物多様性の保全・活用

表 環境指標の進捗状況

↗ : 目標値の達成に向けて好調な推移である

→ : 目標値の達成に向けて安定した推移である

↘ : 目標値の達成に向けて低調な推移である

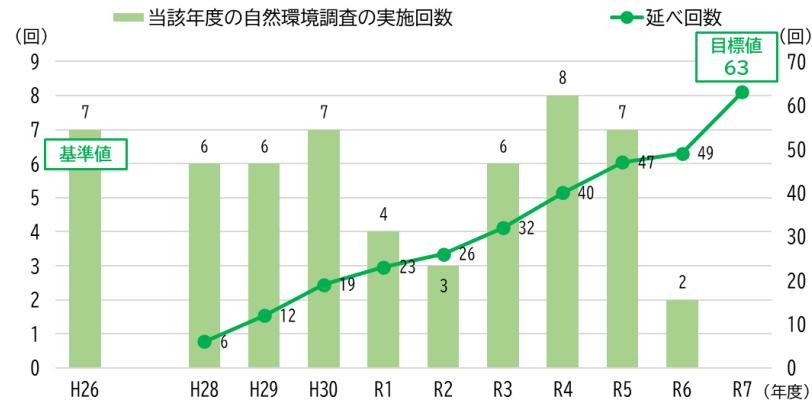
施策	環境指標	基準値 (基準年度)	目標値 (目標年度)	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	環境指標 の進捗
1-④ 生物の 生息空間の 保全	自然環境調査の 実施回数	7回 (平成26年度)	【H28～R7の累計】 63回 (令和7年度)	47回	49回	↘
	特定外来生物(植物) 駆除活動対象面積	875㎡/回 (平成26年度)	【H28～R7の累計】 17,500㎡ (令和7年度)	14,000㎡	15,750㎡	→
1-⑤ 多様な自然環境の 活用	自然体験学習の 参加人数	877人 (平成26年度)	【H26～R7の累計】 9,000人 (令和7年度)	15,355人	17,844人	↗

※基準年度からの推移は資料編P120～122を参照

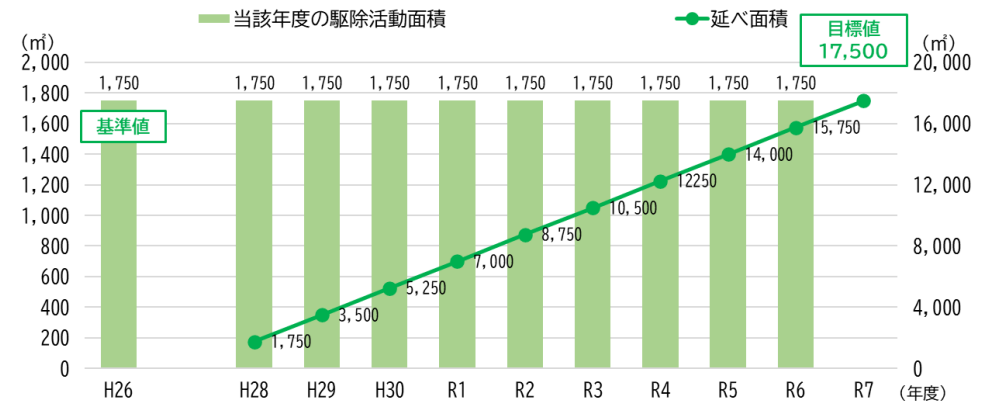
令和6年度における主な振り返り

- 自然環境調査は、多摩川、野川及び仙川、並びに佐須の用水において、底生生物、付着藻類の調査を実施し、野川及び仙川において、魚類調査を1回実施しました。湧水調査は概ね3年に1回調査を実施しています(令和6年度は未実施)。調布市環境モニター活動において、植物調査を1回実施しました。今後も定点観察を取り入れた植物調査を継続するなど、調査内容の充実を図ります。【環境指標：自然環境調査の実施回数】
- 例年(一社)生物多様性保全協会との協働にて実施している多摩川の外来植物駆除は、市内の事業者を含めて一般公募を行い、多摩川河川敷の定点(875㎡)において、6月と9月の2回、特定外来生物(植物)の駆除活動を実施しました。【環境指標：特定外来生物(植物)駆除活動対象面積】
- 調布子どもエコクラブ(計4回, 51人)、調布水辺の楽校(計2回, 73人)、雑木林ボランティア講座(計6回, 92人)、多摩川自然情報館月別イベント(計10回, 116人)、深大寺・佐須地域の公有化した土地の環境整備及び環境学習(延べ参加人数2,130人)、神代農場活用事業(27人)を実施しました。アンケート等でいただいた声を体験学習の内容に反映しつつ、今後も会員数増のために、市ホームページなど広報活動に努めていきます。【環境指標：自然体験学習の参加人数】

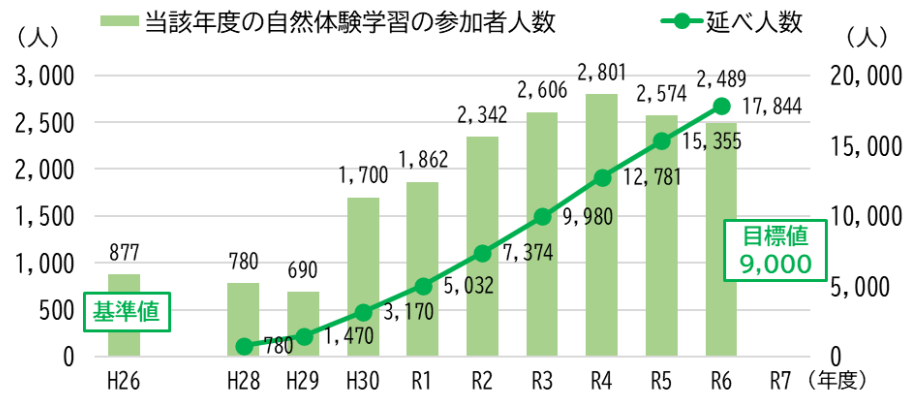
自然環境調査の実施回数



特定外来生物（植物）駆除活動対象面積



自然体験学習の参加人数



基本目標2 人と環境が調和する快適で美しいまち

方針2-(1) 美しい街並みの形成

表 環境指標の進捗状況

↗ : 目標値の達成に向けて好調な推移である

➡ : 目標値の達成に向けて安定した推移である

↘ : 目標値の達成に向けて低調な推移である

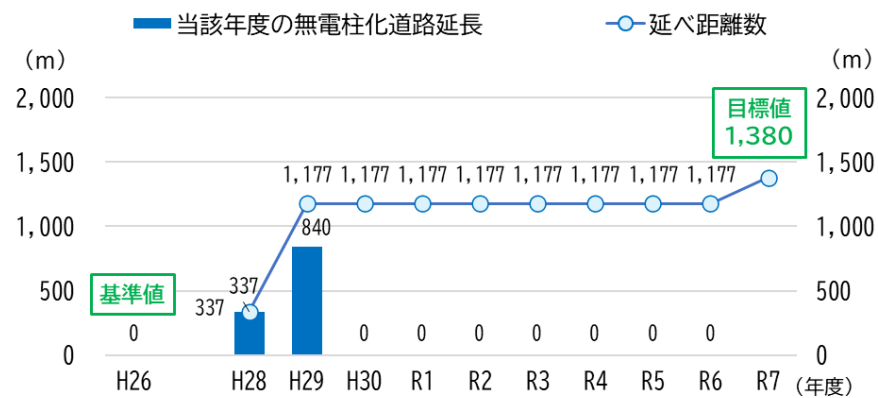
施策	環境指標	基準値 (基準年度)	目標値 (目標年度)	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	環境指標 の進捗
2-① 景観形成の 推進	無電柱化道路延長	0m (平成26年度)	【H28～R7の累計】 1,380m (令和7年度)	1,177m	1,177m	↘
	公共が保全する緑 の面積(再掲)	146.63ha (平成26年度)	149.85ha (令和7年度)	151.92ha	152.63ha	↗
2-② 歴史・文化 環境の保全・継承	調布には優れた景観が あると思う市民の割合	81.9% (令和4年度)	90.0% (令和8年度)	81.7%	83.6%	↗

※基準年度からの推移は資料編P120～122を参照

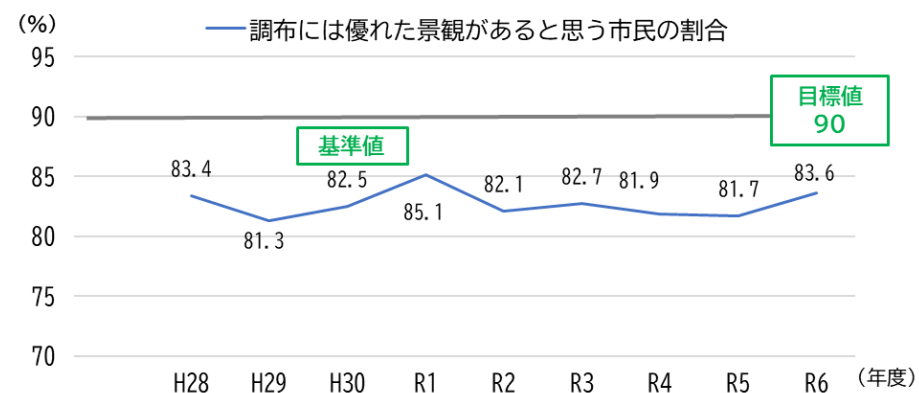
令和6年度における主な振り返り

- 令和6年度は、調布3・4・21号線約180m, 調布3・4・26号線480m(みちまち区間東側約90m, 市道C21号線約390m), 調布3・4・28号線約400m, の電線共同溝整備工事を行いました。電線共同溝への引込連系管工事により、電線類を地中に埋設し、無電柱化による美しい街並みの形成を推進していきます。【環境指標：無電柱化道路延長】
- 無電柱化に向け、令和6年度は、配水小管移設工事、水路付替工事を実施しました。電線共同溝整備道路の指定告示及び来年度の本体工事実施に向けて支障移設等を行います。【環境指標：無電柱化道路延長】
- 景観計画や景観条例に基づき、建築・開発行為等に対する届出審査を通じて、良好な景観形成に向けた規制誘導を行いました。今後は、都市計画マスタープランの策定にともない、新たな景観課題を踏まえた景観計画の改定を行います。【環境指標：調布には優れた景観があると思う市民の割合】

無電柱化道路延長



調布には優れた景観があると思う市民の割合



方針2-(2) 快適な空間の確保

表 環境指標の進捗状況

↗ : 目標値の達成に向けて好調な推移である

→ : 目標値の達成に向けて安定した推移である

↘ : 目標値の達成に向けて低調な推移である

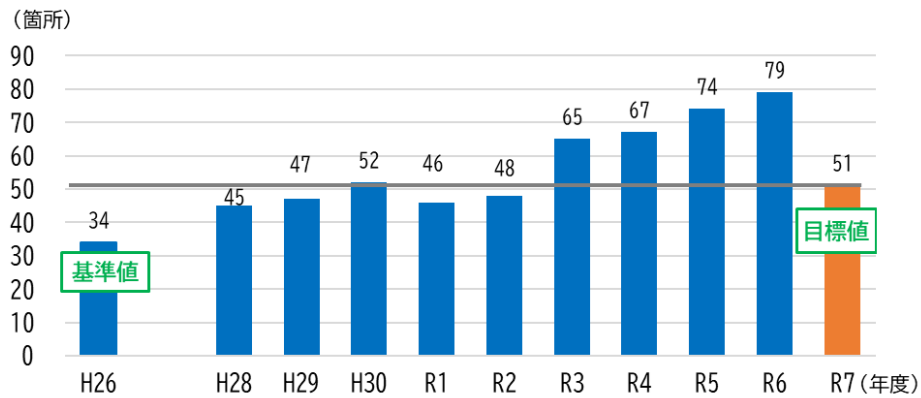
施策	環境指標	基準値 (基準年度)	目標値 (目標年度)	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	環境指標 の進捗
2-③ まちのうおいの創出	花いっぱい運動の実施箇所数	34箇所 (平成26年度)	51箇所 (令和7年度)	74箇所	79箇所	↗
	市民一人当たりの公園面積	5.77㎡ (平成26年度)	5.5㎡ (令和7年度)	5.50㎡	5.52㎡	↗
2-④ 都市美化の推進	美化推進重点地区数	7地区 (平成26年度)	11地区 (令和7年度)	10地区	10地区	↘
	美化活動に参加した市民の数	9,075人 (平成29年度)	11,000人 (令和4年度)	4,325人	6,120人	↗

※基準年度からの推移は資料編P120～122を参照

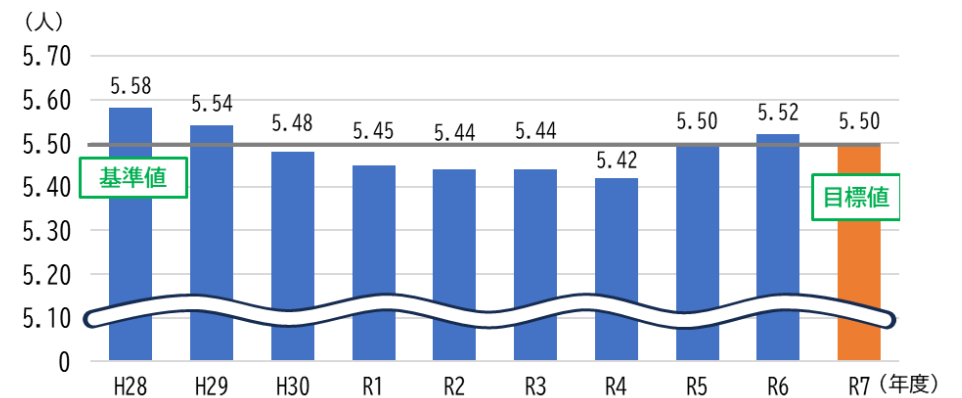
令和6年度における主な振り返り

- 花いっぱい運動の登録団体数は6団体増加し、77団体となりました（2団体年度中に活動中止）。補助金の申請は、前期48件、後期49件の合計97件の申請を52団体から受け、52箇所で花いっぱい運動補助事業を実施しました。【環境指標：花いっぱい運動の実施箇所数】
- 令和6年度も引き続き人口が増加したものの、1人当たりの公園面積はほぼ横ばいでした。公園面積の維持を図りつつ、機能再編整備等による公園の質の向上も図ります。【環境指標：市民一人当たりの公園面積】
- 美化推進重点地区として指定している8地区に、令和5年4月1日に指定した飛田給駅、及び調布駅周辺地区を加えた10地区において、各地区での市民等による美化活動の支援を行い、都市美化の推進を図りました。特に、飛田給駅、及び調布駅周辺地区の2地区については、市ホームページや市報等による広報活動に加えて、同周辺地区内の市が管理している公園や駐輪場等に啓発プレート等を設置するなど、区域の周知・啓発を実施しました。【環境指標：美化推進重点地区数】
- 美化活動は、多摩川クリーン作戦1,960人（春967人、秋993人）、野川クリーン作戦108人、調布駅前クリーン作戦310人、飛田給駅前クリーン作戦90人、喫煙マナーアップ・受動喫煙防止キャンペーン179人、マナーアップ清掃（京王多摩川駅）64人、地域清掃3,409人と、合計6,120人の参加がありました。【環境指標：美化活動に参加した市民の数】

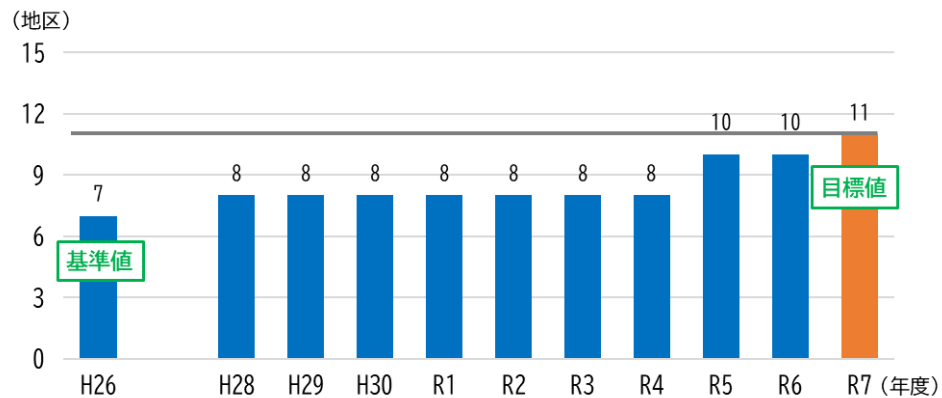
花いっぱい運動の実施箇所数



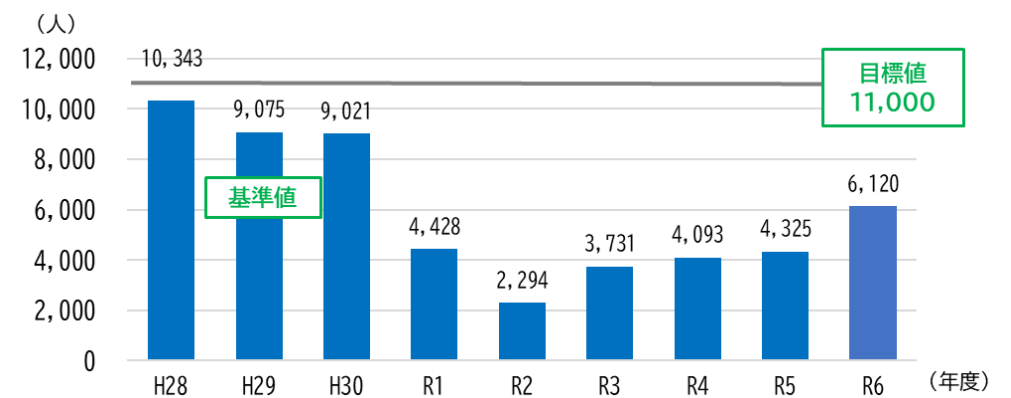
市民一人当たりの公園面積



美化推進重点地区数



美化活動に参加した市民の数



基本目標3 安心して暮らせる生活環境が確保されるまち

方針3-(1) 公害のない環境の維持

表 環境指標の進捗状況

↗ : 目標値の達成に向けて好調な推移である

➡ : 目標値の達成に向けて安定した推移である

↘ : 目標値の達成に向けて低調な推移である

施策	環境指標	基準値 (基準年度)	目標値 (目標年度)	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	環境指標 の進捗
3-① 大気汚染の 防止	二酸化窒素(NO_2)の 環境基準※1の 年間未達成日数	1日 (平成26年度)	0日 (令和7年度)	1日	0日	➡
	浮遊粒子状物質 (SPM)の環境基準※2 の年間未達成状況	0日, 0時間 (平成26年度)	0日, 0時間 (令和7年度)	0日, 0時間	0日, 0時間	➡
	微小粒子状物質 (PM2.5)の環境 基準※3の年間未達成 状況	0日 (平成26年度)	0日 (令和7年度)	0日	0日	➡
3-② 水質汚濁の 防止	雨天時における処理場 を含む各吐口からの放 流水のBOD値 (平均放流水質)	40mg/L以下※4 (平成26年度)	40mg/L以下※4 (令和7年度)	24.5mg/L	33.8mg/L	↗
3-③ 騒音・振動の発生 抑制	道路交通騒音の 要請限度数値の 未達成地点数	1地点 (平成26年度)	0地点 (令和7年度)	0地点	0地点	➡
	騒音・振動に係る 事業者等への法令等に 基づく指導・勧告・命 令件数	0件 (令和元年度)	0件 (令和7年度)	0件	0件	➡
3-④ 化学物質等の対策 の推進	地下水の水質汚濁に 係る環境基準 不適合井戸数	0件 (令和元年度)	0件 (令和7年度)	3件	3件	↘

※1 1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppm内又はそれ以下であること。

※2 1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。※3 1年平均値が15μg/m³以下であり、かつ、1日平均値が35μg/m³以下であること。

※4 基準値、目標値は、下水道法施行令による基準値

※基準年度からの推移は資料編P120～122を参照

令和6年度における主な振り返り

- 二酸化窒素は、年平均濃度でみると都内全域において、ゆるやかな減少傾向です。【環境指標：二酸化窒素（ NO_2 ）の環境基準の年間未達成日数】
- 浮遊粒子状物質は、都内全域において、年平均濃度でみるとここ数年横ばいか減少傾向です。【環境指標：浮遊粒子状物質（SPM）の環境基準の年間未達成状況】
- 都内大気中のPM2.5濃度は、ボイラー、廃棄物焼却炉などの固定発生源対策などの効果で、平成13年度からの10年間で約55%減少しました。【環境指標：微小粒子状物質（PM2.5）の環境基準の年間未達成状況】
- 令和7年3月3日9時～15時の降雨時に、吐口からの放流水質（BOD）を計測し、平均放流水質を算定したところ、33.8mg/Lとなり、基準値（40mg/L）以下でした。引き続き住宅等の新築・建替の際に、排水設備への雨水貯留浸透施設の設置を推進し、下水道への雨水流入の抑制を図ること
で、雨天時に下水道から河川等公共用水域へ放流される汚濁負荷量の削減に努めていきます。【環境指標：雨天時における処理場を含む各吐口からの放流水のBOD値（平均放流水質）】
- 低騒音舗装の敷設などの対策により、要請限度超過が改善されつつあります。令和6年度は国道20号の夜間測定結果が67dBとなり、要請限度値以内でした。【環境指標：道路交通騒音の要請限度数値の未達成地点数】
- 騒音・振動に関する苦情は絶えませんが、事業所等に対し、発生した事象の対策を講じるよう要請し、解決を図ったことから、法令に基づく指導・勧告・命令件数はありませんでした。【環境指標：騒音・振動に係る事業者等への法令等に基づく指導・勧告・命令件数】
- 令和6年度は、市内9箇所調査を実施した結果、環境基準不適合井戸が3件ありました。【環境指標：地下水の水質汚濁に係る環境基準不適合井戸数】

基本目標4 脱炭素で循環型の社会を目指すまち

調布市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の概要

市では、温室効果ガスの削減を目的として、調布市地球温暖化対策実行計画を定めており、環境基本計画と連携を図って進めていくこととしています。

調布市地球温暖化対策実行計画の施策と取組内容は、環境基本計画の基本目標4「脱炭素で循環型の社会を目指すまち」と関係しているため、このページは調布市地球温暖化対策実行計画の進捗管理を兼ねています。

基本計画 基本目標4 施策体系

脱炭素で循環型の社会を目指すまち

方針4-(1) 脱炭素化に向けたまちづくりの推進

施策4-①脱炭素型ライフスタイル・ビジネススタイルの普及

施策4-②再生可能エネルギー等の利用推進

施策4-③スマートシティの実現

施策4-④気候変動への適応

方針4-(2) 循環型まちづくりの推進

施策4-⑤3Rの推進によるごみの減量

施策4-⑥ごみの適正処理

区域施策編 施策体系

めざそう脱炭素のまち調布

～ひとりひとりの“かしこい選択”が作るわたしたちの暮らしと未来～

施策1 脱炭素型ライフスタイル・ビジネススタイルの普及

- 1-1 家庭における脱炭素型ライフスタイルの普及
- 1-2 事業所における脱炭素型ビジネススタイルの普及
- 1-3 市の率先行動
- 1-4 地球温暖化に関する環境学習の推進

施策2 再生可能エネルギー等の利用推進

- 2-1 再生可能エネルギー等の利用推進
- 2-2 次世代エネルギーに関する普及啓発

施策3 スマートシティの実現

- 3-1 スマートシティの推進
- 3-2 環境に配慮した交通手段の利用促進
- 3-3 緑の保全・創出による地球温暖化対策

施策4 循環型社会の形成

- 4-1 3Rの推進
- 4-2 プラスチック対策
- 4-3 食品ロス対策

施策5 脱炭素型ライフスタイル・ビジネススタイルの普及

- 5-1 地球温暖化及び気候変動に関する情報提供
- 5-2 自然災害への対策
- 5-3 暑熱対策の推進

地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の進捗状況

二酸化炭素排出量の削減目標

区域施策編では、二酸化炭素排出量の削減について、2030年までの中期目標と、2050年までの長期目標を設定しています。

中期目標

令和12
(2030) 年度

二酸化炭素排出量
平成25年度（2013）年度比 **40%削減**

長期目標

2050年

二酸化炭素の**排出実質0**

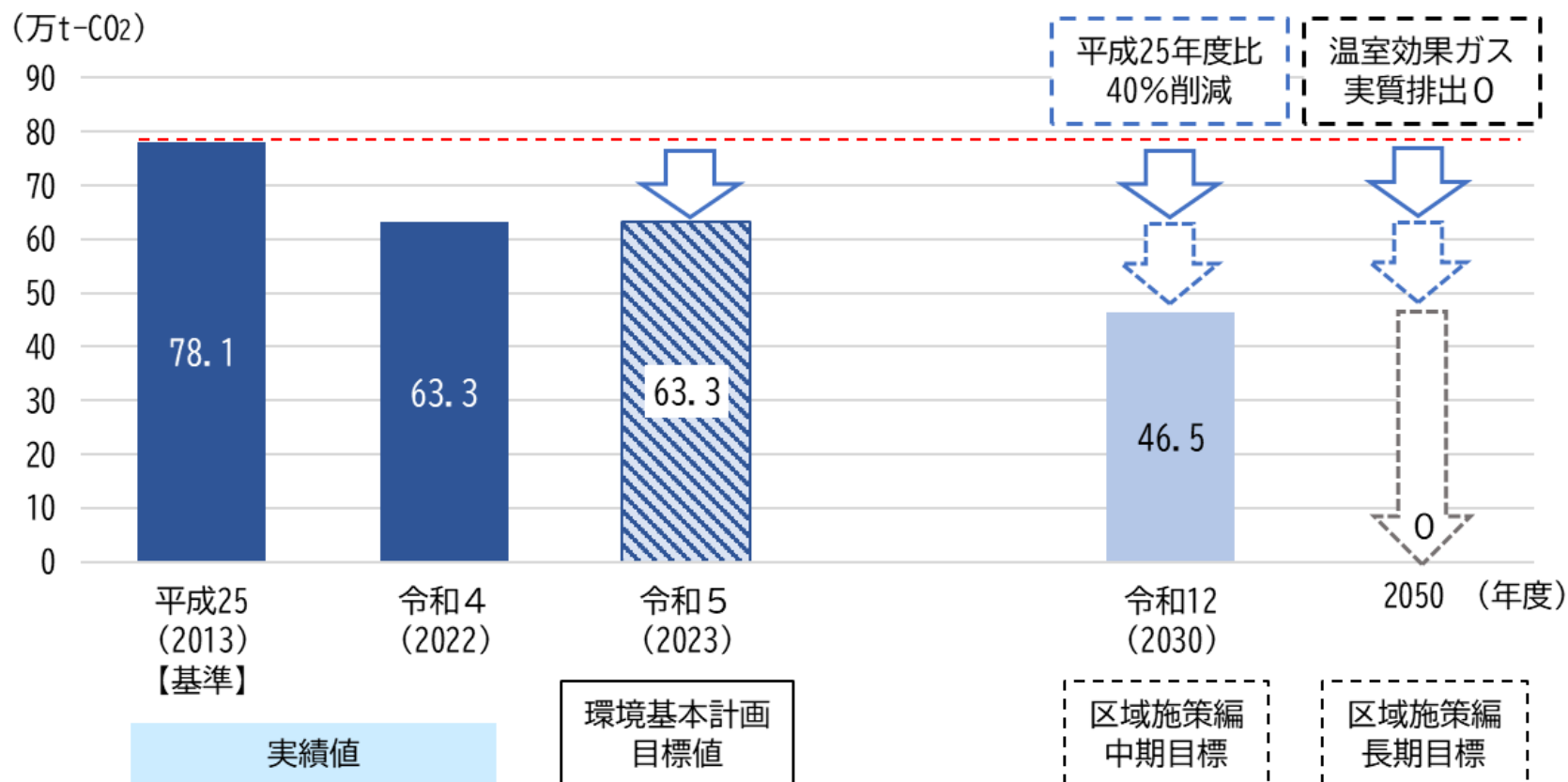
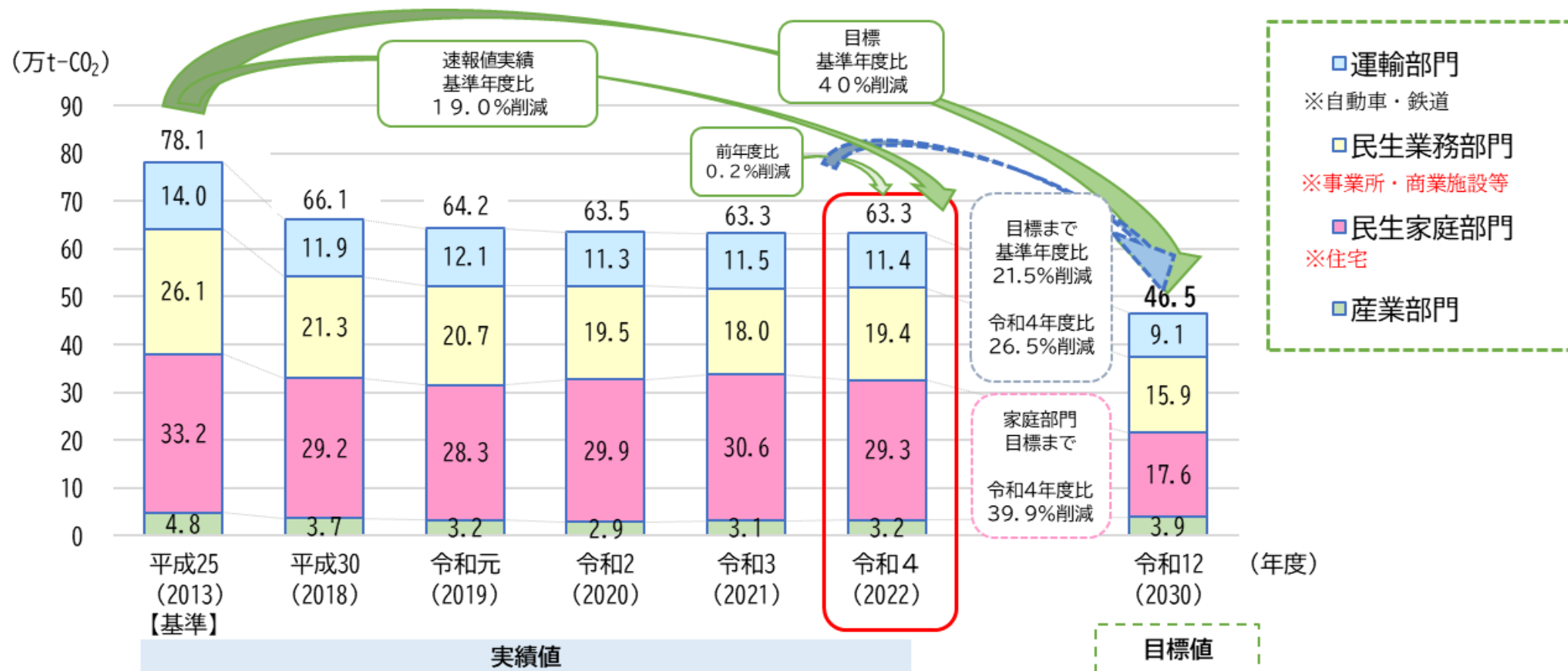


図 環境基本計画・区域施策編の削減目標の関係

削減目標に対する進捗

市域の令和4（2022）年度の二酸化炭素排出量は、63.3万t-CO₂で、基準年度となる平成25（2013）年度比19.0%減少（前年度比0.2%減少）です。



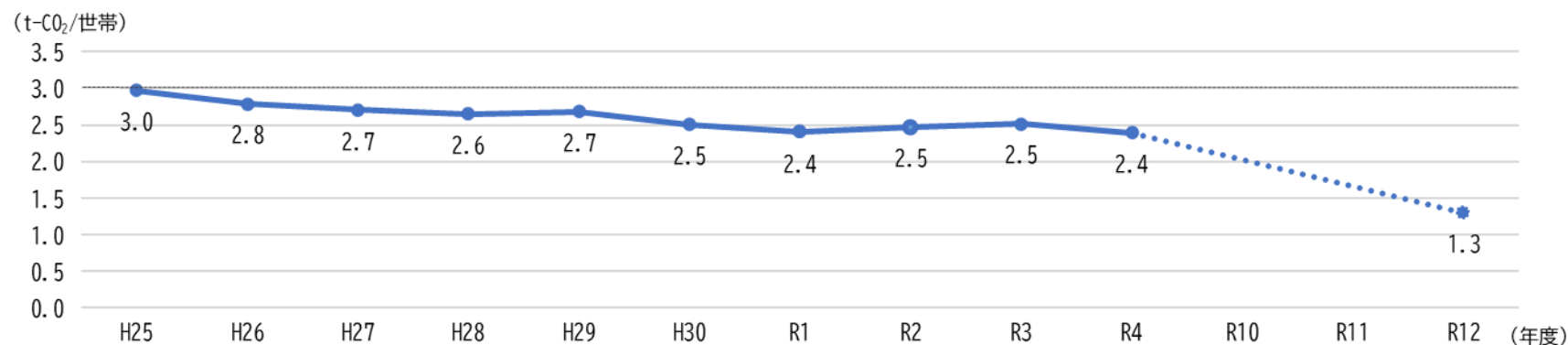
※ オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」（主催：特別区長会・東京都市長会・東京都町村会）において算出・公表されている「調布市における温室効果ガス排出量」を参照。利用可能な統計データが揃ってから、可能な限り市区町村別の値を用いて算出しているため、数値は2年遅れの公表となります。

民生部門の単位当たり二酸化炭素排出量の削減目標に対する進捗

① 民生家庭部門

【取組目標】 令和12（2030）年度までに世帯当たりの二酸化炭素排出量
平成25（2013）年度比56％削減

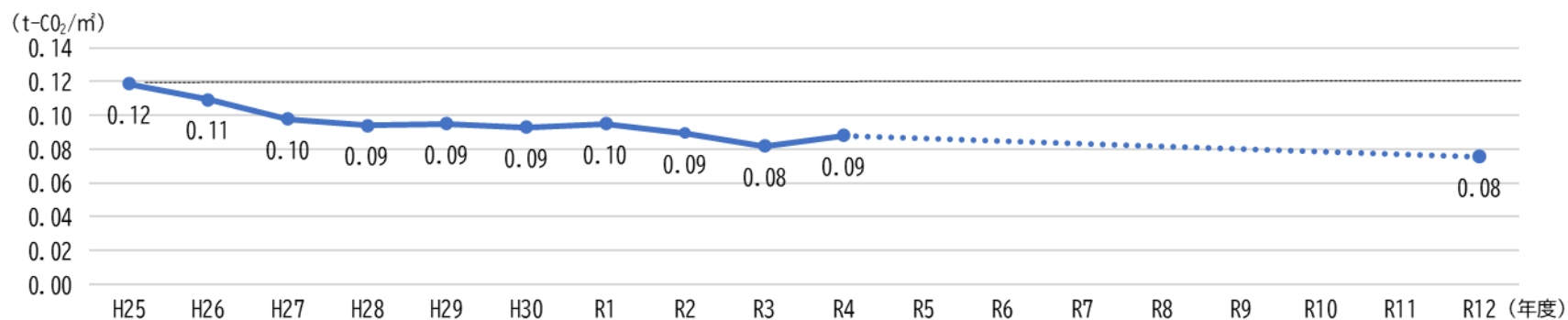
- 令和4（2022）年度の世帯当たりの二酸化炭素排出量は、 $2.4\text{t-CO}_2/\text{世帯}$ で、平成25（2013）年度比19.5％減少（前年度比4.8％）



② 民生業務部門

【取組目標】 令和12（2030）年度までに業務系建築物の床面積当たり二酸化炭素排出量
平成25（2013）年度比33％削減

- 令和4（2022）年度の業務系建築物の床面積当たり二酸化炭素排出量は、 $0.09\text{t-CO}_2/\text{m}^2$ で、平成25（2013）年度比で25.9％減少（前年度比7.8％増加）



〔参考〕部門別二酸化炭素排出量の推移（廃棄物部門を含む）

(万t-CO₂)

部門	1990	1995	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
農業	0.1	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
建設業	1.8	2.4	1.6	1.4	2.3	1.8	2.1	1.4	2.6	1.4	1.7	1.5	2.0	2.2	1.6	2.4	1.5	1.1	1.4	1.6	1.4	1.1	1.1	1.1	1.3
製造業	7.9	6.6	5.4	4.4	5.2	5.0	4.7	4.5	3.6	4.0	3.7	3.5	3.2	2.6	2.2	2.2	2.1	2.1	2.0	2.1	2.1	1.9	1.6	1.9	1.8
産業部門	9.8	9.3	7.2	6.0	7.8	7.0	7.0	6.1	6.5	5.6	5.7	5.2	5.5	5.1	4.1	4.8	3.8	3.3	3.6	3.9	3.7	3.2	2.9	3.1	3.2
家庭	20.5	22.2	23.0	22.4	26.0	28.5	26.1	27.7	25.1	29.1	28.4	27.7	28.6	31.1	33.6	33.2	31.3	29.9	29.8	30.7	29.2	28.3	29.9	30.6	29.3
業務	15.6	17.7	18.6	18.3	20.7	23.7	21.2	21.5	20.0	23.7	24.3	21.6	21.4	22.9	26.8	26.1	24.2	21.4	21.0	21.6	21.3	20.7	19.5	18.0	19.4
民生部門	36.1	40.0	41.6	40.6	46.7	52.3	47.3	49.2	45.2	52.8	52.8	49.3	50.0	54.0	60.4	59.3	55.5	51.3	50.8	52.3	50.5	48.9	49.3	48.6	48.7
自動車	17.1	19.7	20.1	19.9	20.1	19.6	18.7	16.9	16.6	15.6	15.0	15.0	14.4	13.9	13.2	12.8	12.8	12.3	11.2	11.1	10.8	11.0	10.3	10.5	10.4
鉄道	0.8	0.8	0.7	0.7	0.9	1.1	0.9	0.9	0.8	1.0	0.9	0.8	0.8	1.0	1.1	1.2	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	1.0
運輸部門	17.9	20.5	20.8	20.6	21.0	20.7	19.6	17.8	17.4	16.6	15.9	15.8	15.3	15.0	14.3	14.0	14.0	13.4	12.3	12.2	11.9	12.1	11.3	11.5	11.4
廃棄物部門	1.0	1.1	1.2	1.1	1.0	1.2	1.0	0.4	0.5	0.6	0.5	0.6	0.8	0.7	0.6	1.3	1.2	0.7	0.7	0.7	1.1	0.7	0.8	1.4	1.1
合計	64.8	70.8	70.8	68.4	76.5	81.1	74.9	73.5	69.6	75.7	74.9	70.9	71.4	74.8	79.4	79.4	74.4	68.7	67.4	69.1	67.3	65.0	64.4	64.7	64.4

※表中の数値は小数点以下を四捨五入している。

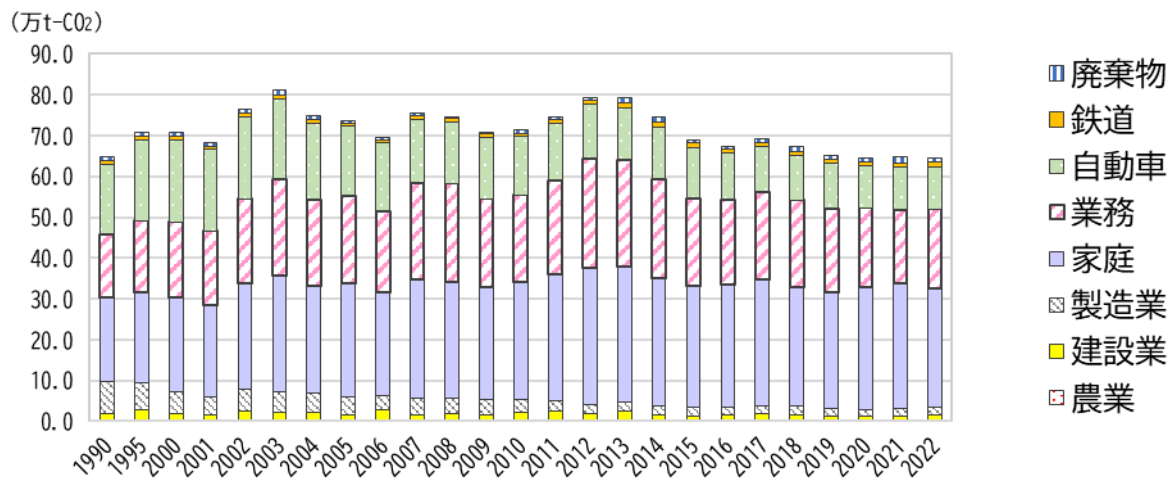
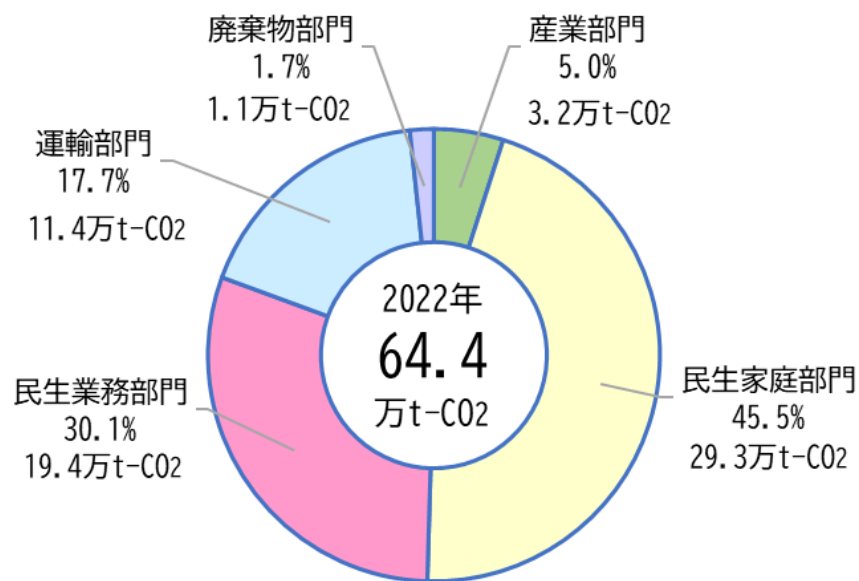


図 調布市における部門別二酸化炭素排出量の推移

※ オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」（主催：特別区長会・東京都市長会・東京都町村会）において算出・公表されている「調布市における温室効果ガス排出量」を参照。利用可能な統計データが揃ってから、可能な限り市区町村別の値を用いて算出しているため、数値は2年遅れの公表となります。

部門別の二酸化炭素排出量の特徴

- 排出量が最も多い部門は、住宅からの排出となる民生家庭部門（45.5%（29.3万t-CO₂））。2番目に多い部門は、事業所や商業施設などからの排出となる民生業務部門（30.1%（19.4万t-CO₂））で、建物に由来するエネルギー消費に伴う二酸化炭素の排出割合が約8割
- 民生業務部門のうち、約5割は事業所からの排出
- 運輸部門の約9割は自動車からの排出、約1割は鉄道からの排出
- 産業部門の約4割は建設業、約6割は製造業からの排出
- 廃棄物部門は、市内のごみ収集量を基に算定した廃プラスチック・合成繊維くずの焼却量から算定



民生部門（家庭・業務）の排出割合が約8割を占めており、建物に由来するエネルギー消費に伴う排出割合が大きいことから、住宅や建築物からの二酸化炭素排出量削減に向けた取組が必要

※ オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」（主催：特別区長会・東京都市長会・東京都町村会）において算出・公表されている「調布市における温室効果ガス排出量」を参照。利用可能な統計データが揃ってから、可能な限り市区町村別の値を用いて算出しているため、数値は2年遅れの公表となります。

エネルギー消費量の部門別増減状況

単位：TJ

	平成25年度	令和3年度	令和4年度		
	基準値	実績値	実績値	基準年度比	前年度比
民生家庭部門	3,459.1	3,701.8	3,530.8	+2.1%	▲4.6%
民生業務部門	2,217.7	1,776.5	1,926.7	▲13.1%	+8.5%
運輸部門	1,957.6	1,627.6	1,615.7	▲17.5%	▲0.7%
産業部門	517.2	350.0	368.8	▲28.7%	+5.4%
廃棄物部門	—	—	—	—	—
計	8,151.5	7,455.9	7,442.0	▲8.7%	▲0.2%

二酸化炭素排出量の部門別増減状況

	平成25年度	令和3年度	令和4年度		
	基準値	実績値	実績値	基準年度比	前年度比
民生家庭部門	33.2	30.6	29.3	▲11.7%	▲4.2%
民生業務部門	26.1	18.0	19.4	▲25.8%	+7.5%
運輸部門	14.0	11.5	11.4	▲18.6%	▲0.9%
産業部門	4.8	3.1	3.2	▲33.0%	+3.2%
廃棄物部門	1.3	1.4	1.1	▲14.0%	▲22.4%
計	79.4	64.7	64.4	▲18.9%	▲0.4%

方針4-(1) 脱炭素化に向けたまちづくりの推進

表 環境指標の進捗状況

↗ : 目標値の達成に向けて好調な推移である

→ : 目標値の達成に向けて安定した推移である

↘ : 目標値の達成に向けて低調な推移である

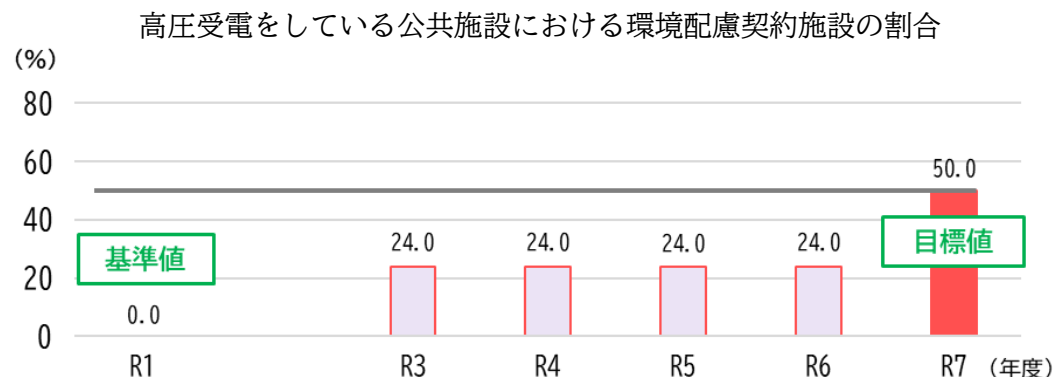
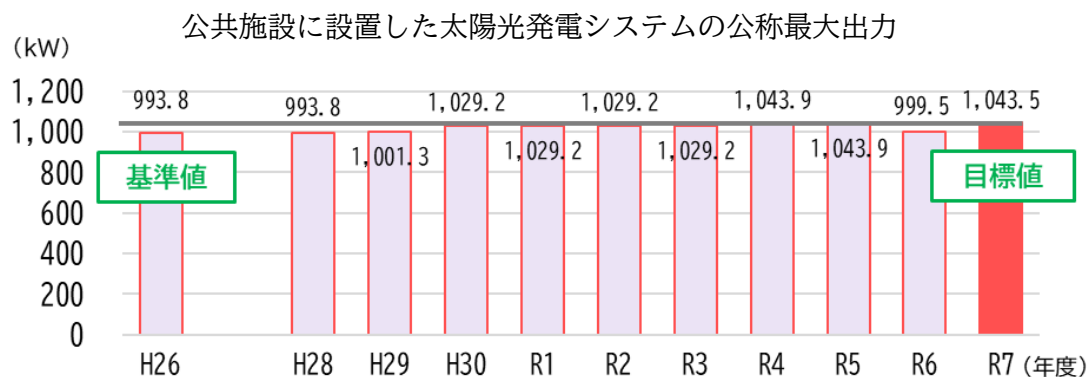
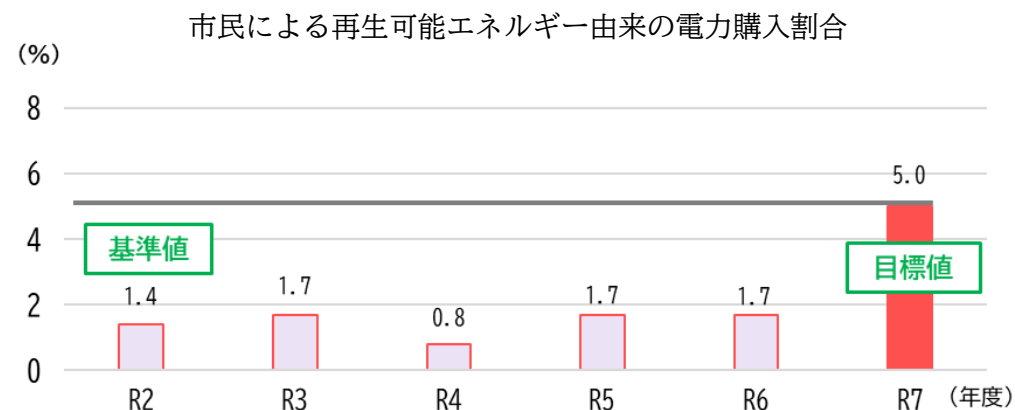
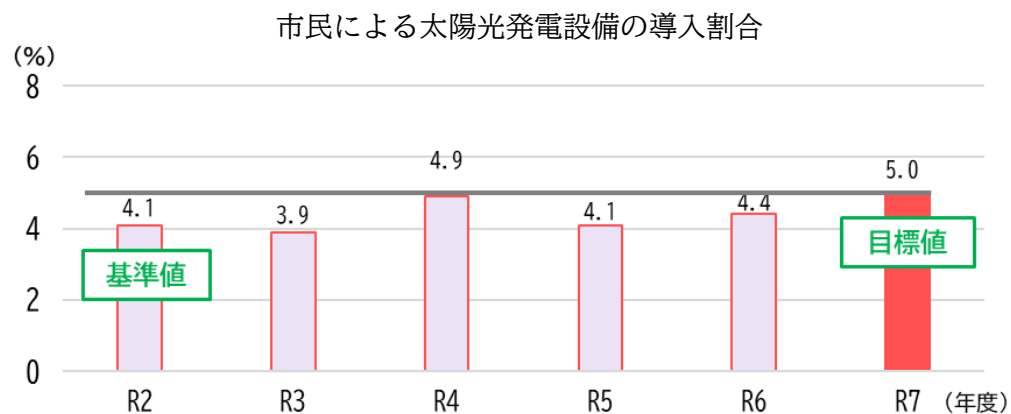
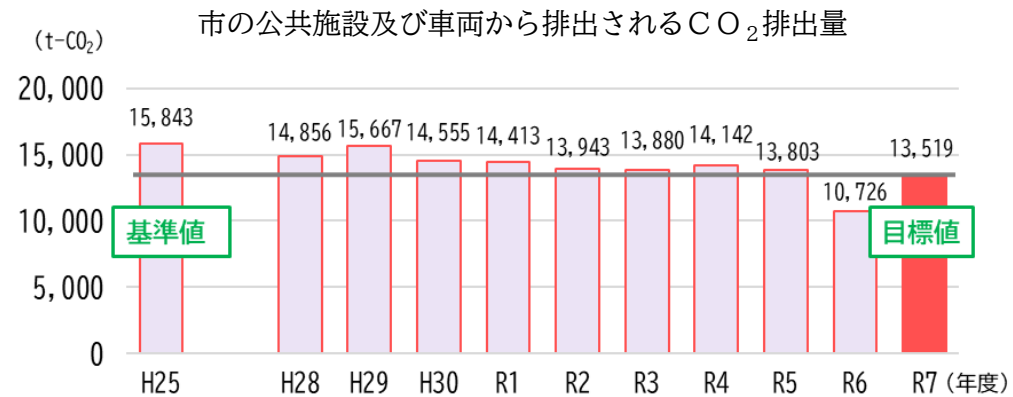
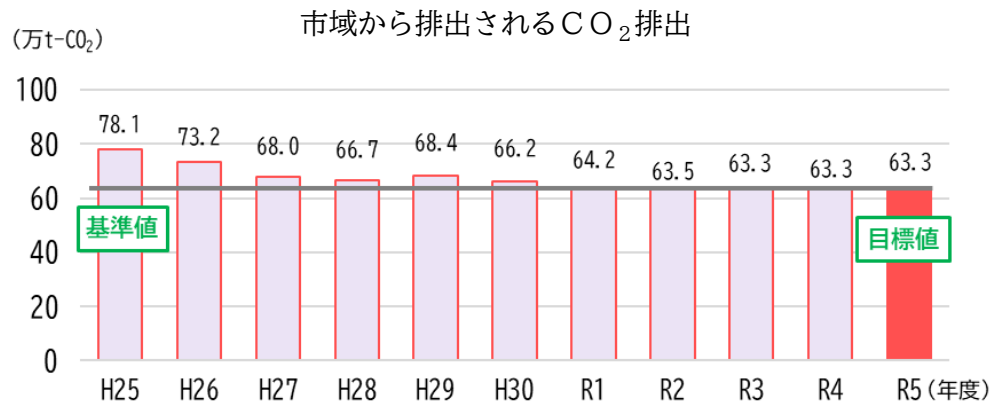
施策	環境指標	基準値 (基準年度)	目標値 (目標年度)	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	環境指標 の進捗
4-① 脱炭素型ライフスタイル・ ビジネススタイルの普及	市域から排出されるCO ₂ 排出量※	78.1万t-CO ₂ (平成25年度)	63.3万t-CO ₂ (令和5年度)	63.3万t-CO ₂ (令和3年度)	63.3万t-CO ₂ (令和4年度)	→
	市の公共施設及び 車両から排出されるCO ₂ 排出量	15,843t-CO ₂ (平成25年度)	13,519t-CO ₂ (令和7年度)	13,803t-CO ₂	10,726t-CO ₂	↗
4-② 再生可能エネルギー等の利用推進	市民による 太陽光発電設備の 導入割合	4.1% (令和2年度)	5% (令和7年度)	4.1%	4.4%	→
	市民による 再生可能エネルギー 由来の電力購入割合	1.4% (令和2年度)	5% (令和7年度)	1.7%	1.7%	↘
	公共施設に設置した 太陽光発電システムの 公称最大出力	993.8kW (平成26年度)	1,043.5kW (令和7年度)	1,043.9kW	999.514kW	→
	高圧受電をしている公 共施設における環境配 慮契約施設の割合	0% (令和元年度)	50% (令和7年度)	24%	24%	↘
4-③ スマートシティの 実現	街路灯のLED化割合 (LED化した街路灯 基数の割合)	21.0% (平成30年度)	63% (令和7年度)	48.5%	55.3%	→
	自転車走行空間の 整備延長距離数	17.35km (平成30年度)	34km (令和4年度)	38.31km	38.75km	→
4-④ 気候変動への適応	地球温暖化及び気候 変動に係る情報発信	25回 (平成26年度)	30回 (令和7年度)	83回	99回	↗
	浸透施設等の設置によ る雨水の浸透能力 (再掲)	66,828m ³ /h (平成26年度)	【H26～R7の累計】 136,400m ³ /h (令和7年度)	130,560m ³ /h	134,074m ³ /h	↗

※ オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」において算出・公表される調布市の二酸化炭素排出量のうち、廃棄物部門の排出量を除いたエネルギー起源CO₂排出量。数値は2年遅れの公表となる。

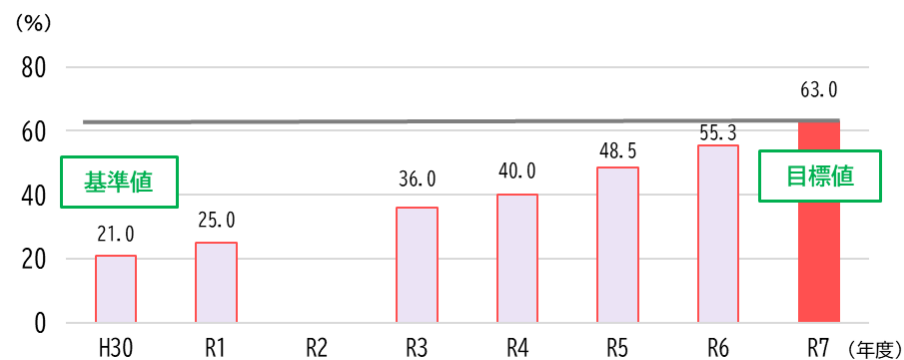
※基準年度からの推移は資料編P120～122を参照

令和6年度における主な振り返り

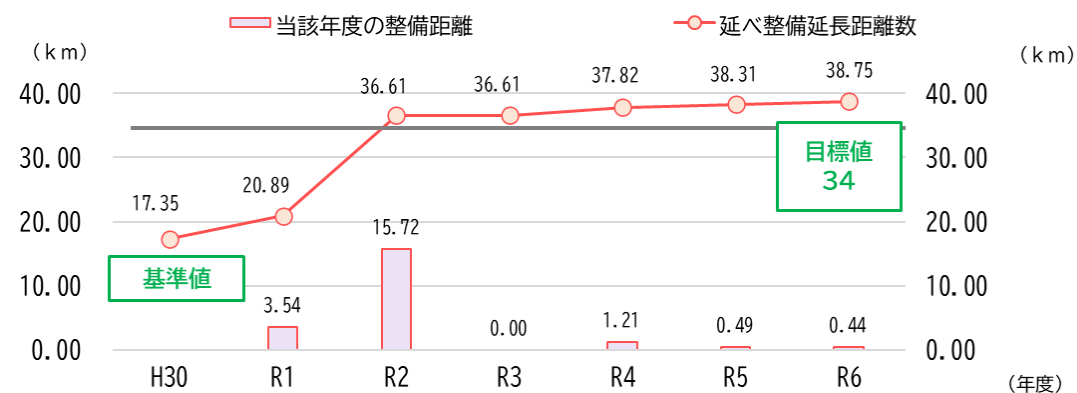
- 市域から排出されるCO₂排出量は、平成25年度と比較し、令和4年度は149kt-CO₂eq（19.0%）の削減、エネルギー消費量についても、令和4年度は710TJ（8.7%）の削減となっています。【環境指標：市域から排出されるCO₂排出量】
- 市役所から排出される温室効果ガス排出量は、平成25年度と比較し、CO₂排出量が12.9%削減されています。削減要因として、文化会館たづくりにおけるESCO事業、老朽化した空調設備の更新、46公共施設において再エネ100%電気の契約をしました。【環境指標：市の公共施設及び車両から排出されるCO₂排出量】
- 太陽光発電設備に係る国や都、調布市の補助事業について、市報、ホームページ、調布市住まいのサポートガイドブック等を活用して情報発信を行うとともに、東京都の実施する太陽光発電及び蓄電池グループ購入促進事業に係る広報協力を行うことで、市内における太陽光発電設備の普及啓発に努めました。【環境指標：市民による太陽光発電設備の導入割合】
- 再生可能エネルギーの重要性について、市報、ホームページ、イベントの開催等により情報発信を行いました。また、脱炭素行動「ゼロカーボンアクション30」を紹介するとともに、国・東京都等が実施している補助事業について広報協力をを行い、市内における再エネ電力の普及に努めました。【環境指標：市民による再生可能エネルギー由来の電力購入割合】
- 公共施設の新築の際には太陽光発電設備の設置を検討することとしています。公共施設太陽光発電システムは10箇所（公称最大出力119.3kW）、公共施設の屋根貸しによる太陽光発電システムは34箇所（公称最大出力924.6kW）設置されています。【環境指標：公共施設に設置した太陽光発電システムの公称最大出力】
- 令和3年度に環境配慮契約法に基づき定めた「調布市電力の調達に係る環境配慮方針」による高圧受電をしている14の公共施設について、継続した電力購入を行いました。安定的な再エネ電力を調達していくため、令和5年度に「調布市再生可能エネルギー100%電力の調達に係る脱炭素化の推進に関する方針」を策定しました。これに基づき、高圧電力を受電している公共施設のうち市が契約事業者となる46施設における再生可能エネルギー100%電力の導入に向けて手続きを進めました。【環境指標：50kW以上の高圧受電をしている公共施設における環境配慮契約施設の割合】
- 「街路灯LED化推進計画」に基づき、計画的に街路灯をLED灯へ交換しました。【環境指標：街路灯のLED化割合】
- 自転車走行空間の整備を推進しており、令和6年度は調布市自転車ネットワーク計画第1期優先整備路線のうち1路線及び鉄道敷地の側道を整備しました。【環境指標：自転車走行空間の整備延長距離数】
- 令和3年4月に行ったゼロカーボンシティ宣言に関する情報発信を強化するため、調布FMやJCOM調布を活用した発信を行いました。省エネ性能の高い機器への買い替えに係る「東京ゼロエミポイント」、国・都の地球温暖化対策に資する補助事業等について、市報、ホームページ等により情報発信しました。【環境指標：地球温暖化及び気候変動に係る情報発信】



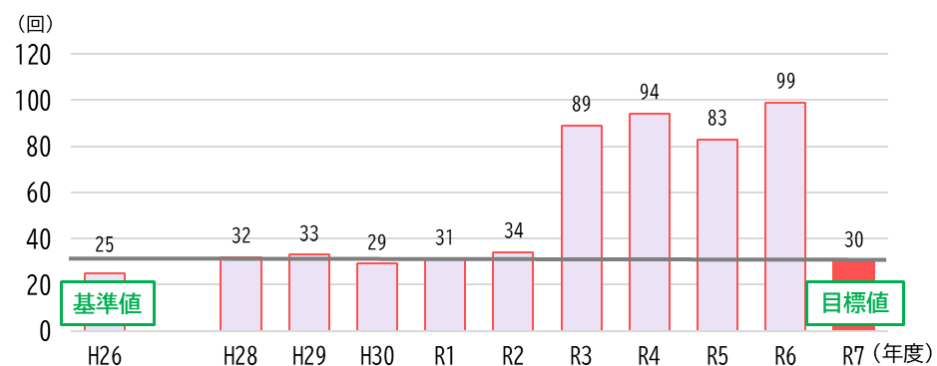
街路灯のLED化割合（LED化した街路灯基数の割合）



自転車走行空間の整備延長距離数



地球温暖化及び気候変動に係る情報発信



方針4-(2) 循環型まちづくりの推進

表 環境指標の進捗状況

↗ : 目標値の達成に向けて好調な推移である

→ : 目標値の達成に向けて安定した推移である

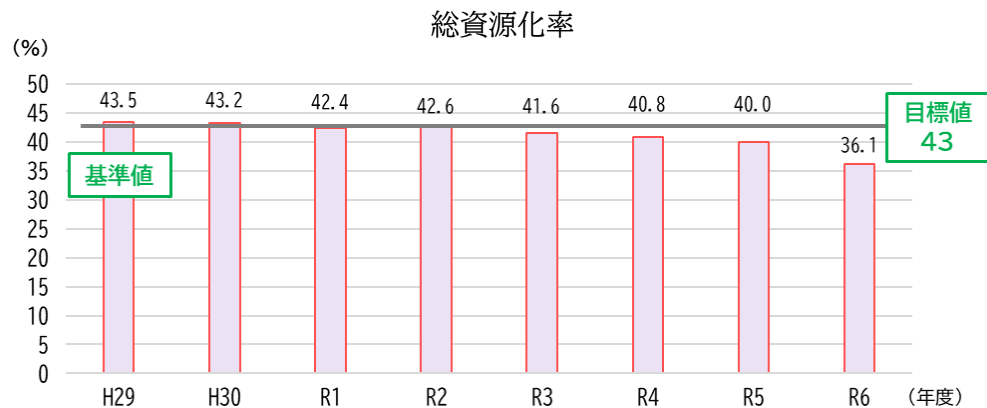
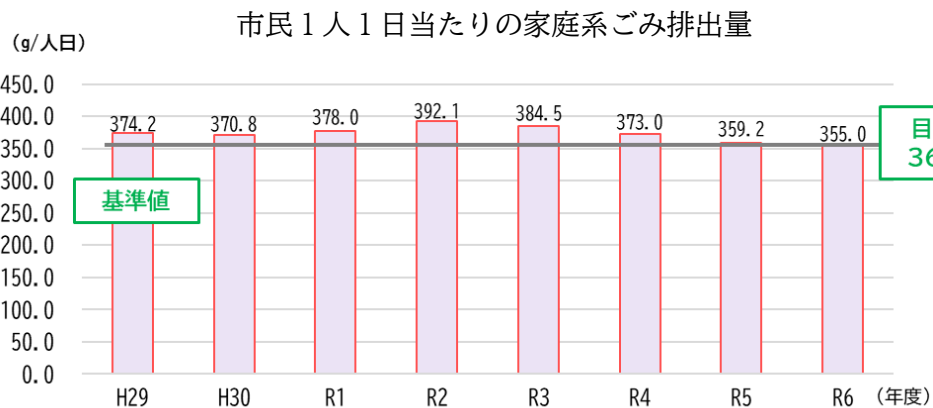
↘ : 目標値の達成に向けて低調な推移である

施策	環境指標	基準値 (基準年度)	目標値 (目標年度)	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	環境指標 の進捗
4-⑤ 3Rの推進による ごみの減量	市民1人1日当たりの 家庭系ごみ排出量	374.2g/人日 (平成29年度)	360g/人日 (令和4年度)	359.2g/人日	355.0g/人日	-※
4-⑥ ごみの適正処理	最終処分量(埋立量)	ゼロ (平成29年度)	ゼロ (令和12年度)	ゼロ	ゼロ	→
	総資源化率	43.5% (平成29年度)	43% (令和4年度)	40.0%	36.1%	-※

※基準年度からの推移は資料編P120～122を参照

令和6年度における主な振り返り

- 市民1人1日当たりの家庭系ごみ排出量(原単位)は355gとなり、目標年度(令和4年度)と比較すると5gの減少となりました。ごみ減量への意識が高まったことに加えて、物価高騰による購買意欲の低下に伴い、ごみ排出量が減少したものと推察しています。市で排出されるごみのうち、一番多くを占める家庭系可燃ごみが前年度から1.0%減少したことに加え、燃やせないごみは0.4%減少、粗大ごみも3.5%減少するなど、家庭系ごみや資源物は全体的に減少傾向にある一方、事業系可燃ごみは増加傾向(+1.0%)です。令和6年度の組成分析調査では燃やせるごみのうち、食品ロスが15.6%、調理くずが28.0%の結果となりました。【環境指標：市民1人1日当たりの家庭系ごみ排出量】
- 令和6年度の総ごみ量は58,024tで、うち36.1%は資源化され、総資源化量は20,941tでした。令和6年8月以降、ふじみリサイクルセンターの建替え工事の影響により、一部を除く容器包装プラスチックとペットボトルを焼却処理しているため、総資源化量が減少しています。【環境指標：総資源化率】



基本目標 5 みんなの力でより良い環境を目指すまち

方針 5－(1) 環境教育・環境学習の推進

表 環境指標の進捗状況

↗ : 目標値の達成に向けて好調な推移である

➡ : 目標値の達成に向けて安定した推移である

↘ : 目標値の達成に向けて低調な推移である

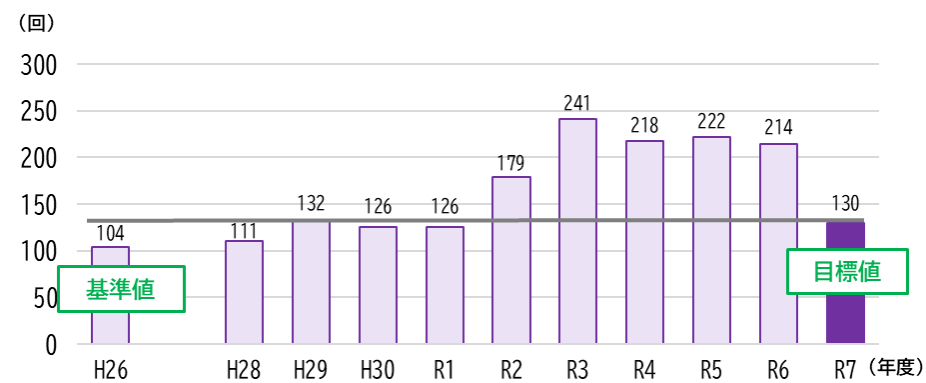
施策	環境指標	基準値 (基準年度)	目標値 (目標年度)	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	環境指標 の進捗
5－① 環境意識の 醸成	市報や環境年次報告書 等による環境情報の 提供回数	104回 (平成26年度)	130回 (令和7年度)	222回	214回	↗
	環境学習事業への 小中学生の参加者数	1,141人 (令和元年度)	1,260人 (令和7年度)	441人	377人	➡
5－② 学びと活動体験機 会の充実	環境学習事業及び 多摩川自然情報館で学 習した延べ人数	12,403人 (令和元年度)	12,450人 (令和7年度)	8,317人	8,303人	➡

※基準年度からの推移は資料編P120～122を参照

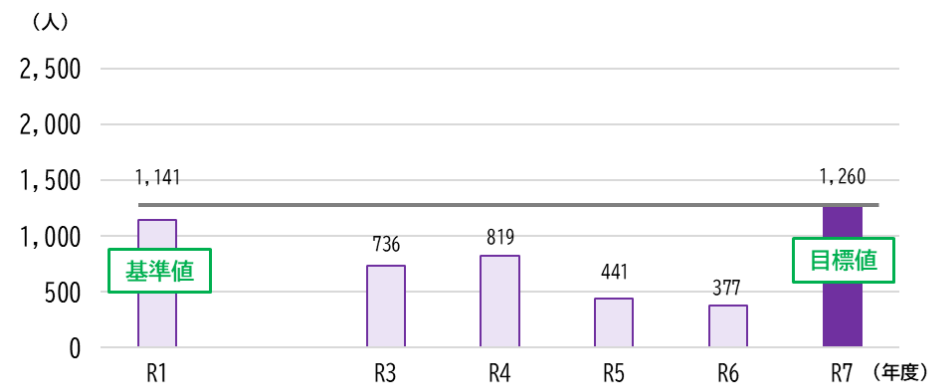
令和6年度における主な振り返り

- 環境白書，ちょうふ環境にゆ～すの発行や，市報，市ホームページ等を通じ，環境に関する情報発信を行いました。その他，SNS等新たな広報媒体も活用し情報発信をしました。情報提供としては，国・東京都等の地球温暖化対策施策の紹介を引き続き行いました。【環境指標：市報や環境年次報告書等による環境情報の提供回数】
- 環境学習事業は，調布水辺の楽校（73人），こどもエコクラブ（51人），多摩川自然情報館（学校教育との連携，子ども向け月別イベント，その他イベントの合計253人）の参加がありました。【環境指標：環境学習事業への小中学生の参加者数】
- 環境学習事業（2,883人）及び多摩川自然情報館で学習した延べ人数（5,420人）の合計8,303人が参加しました。【環境指標：環境学習事業及び多摩川自然情報館で学習した延べ人数】

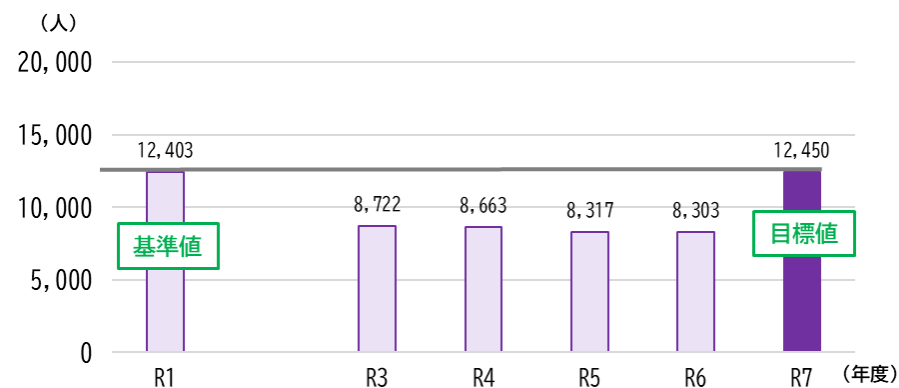
市報や環境年次報告書等による環境情報の提供回数



環境学習事業への小中学生の参加者数



環境学習事業及び多摩川自然情報館で学習した延べ人数



方針５－（２） 連携・協働による環境保全活動の推進

表 環境指標の進捗状況

➤：目標値の達成に向けて好調な推移である

➡：目標値の達成に向けて安定した推移である

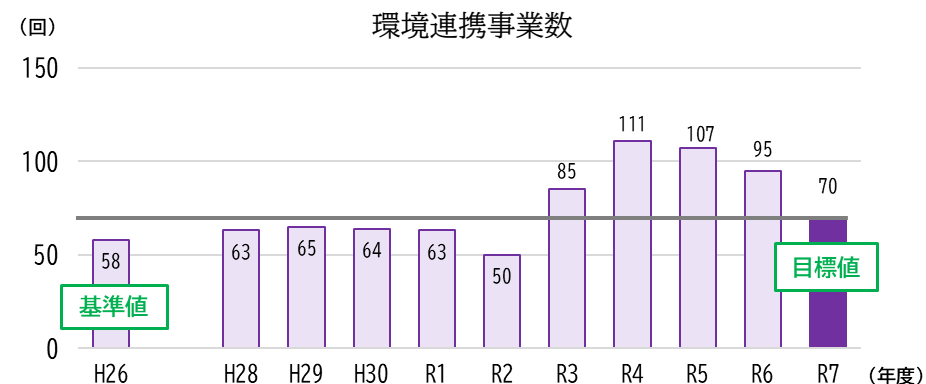
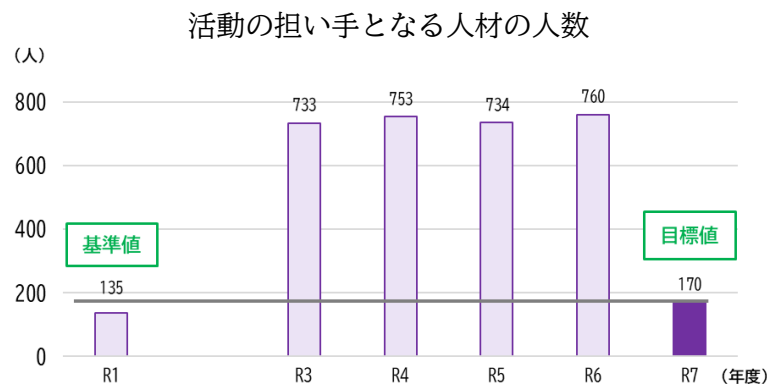
➤：目標値の達成に向けて低調な推移である

施策	環境指標	基準値 (基準年度)	目標値 (目標年度)	令和５年度 実績値	令和６年度 実績値	環境指標 の進捗
５－③ 活動の担い手となる人材育成と活動支援	活動の担い手となる人材の人数	135人 (令和元年度)	170人 (令和７年度)	734人	760人	➤
５－④ 様々な主体と活動の環(わ)の拡大	環境連携事業数	58回 (平成26年度)	70回 (令和７年度)	107回	95回	➤

※基準年度からの推移は資料編P120～122を参照

令和６年度における主な振り返り

- 市内崖線樹林地での活動人数93人、花いっぱい運動活動（地域グループ）580人、おもてなしガーデンボランティア20人の参加がありました。また、雑木林ボランティア講座は、雑木林の管理に係る人材育成を目的に、ちょうふ環境市民会議が企画・運営しており、受講者は23人でした。本受講者のうち希望者に対し、翌年度末まで環境活動イベントの案内を送付し、環境活動ボランティアへの参加支援を継続しています。多摩川自然情報館のボランティア解説員は、2日間の養成講座を修了した方を解説員として登録し、館内での解説やイベント対応等の活動をするもので、登録解説員は44人です。【環境指標：活動の担い手となる人材の人数】
- 市民団体や学校、市民事業者等と連携し、環境講座や地域猫についての講演会、クリーン作戦、喫煙マナーアップ・受動喫煙防止キャンペーン、京王多摩川駅周辺マナーアップ清掃、調布市環境モニター、調布こどもエコクラブ、雑木林ボランティア講座、環境活動交流会、自然環境活用事業、公有地を活用した環境学習事業、オンライン環境学習教材の配信、特定外来生物（植物）駆除活動、第52回調布市環境フェア、神代農場活用事業、水辺の楽校を実施することで、環境保全活動の環(わ)を拡大しました。【環境指標：環境連携事業数】



3 重点プロジェクトの進捗

計画期間内に特に重点的に取り組む主要な事業等について、重点プロジェクトとして位置付け、計画的かつ効率的に施策の成果向上につながるよう実行しています。ここでは、今年度の事業のうち、主な事業について報告します。

プロジェクトの考え方

本計画では、目指す環境の将来像「未来に続く、緑と水あふれるほっとするまち 調布一私が守る地球、私が育む調布の自然と暮らしー」の実現に向け、5つの基本目標を掲げ、

基本目標実現のための23の施策を位置付けています。計画期間内に特に重点的に取り組む主要な事業等について、重点プロジェクトとして位置付け、計画的かつ効率的に施策の成果向上につながるよう実行していきます。

なお、新規事業については、調布市基本計画をはじめとした関連計画との整合性や市の財政状況などを踏まえ、実施します。

<重点プロジェクトの選定基準>

- 1 時代背景を踏まえ、緊急性があり、かつ、優先的な取組が必要である事業
- 2 市民から強く求められている事業（社会的な要請が強い事業）
- 3 事業効果が高い事業
- 4 市民・市民団体・事業者・市の連携・協働により推進される事業

重点プロジェクト

1

市民の心の安らぎ
緑と水を守る
プロジェクト

重点プロジェクト

2

みんなで目指す
環境先進都市
プロジェクト

重点プロジェクト

3

みんなが主役
環境を学んで楽しむ
プロジェクト

重点プロジェクト		① 市民の心の安らぎ 守るプロジェクト 緑と水を	② みんなで目指す 都市プロジェクト 環境先進	③ みんなが主役 環境を学んで 楽しむプロジェクト
基本目標1	1-① 緑の保全	●		
	1-② 水循環の回復と水環境の再生	●		
	1-③ 都市農地や里山環境の維持・保全	●		
	1-④ 生物の生息空間の保全	●		
	1-⑤ 多様な自然環境の活用			
基本目標2	2-① 景観形成の推進			
	2-② 歴史・文化環境の保全・継承			
	2-③ まちのうらおいの創出			
	2-④ 都市美化の推進			
基本目標3	3-① 大気汚染の防止			
	3-② 水質汚濁の防止			
	3-③ 騒音・振動の発生抑制			
	3-④ 化学物質等の対策の推進			
基本目標4	4-① 脱炭素型ライフスタイル・ビジネススタイルの普及		●	
	4-② 再生可能エネルギー等の利用推進		●	
	4-③ スマートシティの実現		●	
	4-④ 気候変動への適応		●	
	4-⑤ 3Rの推進によるごみの減量		●	
	4-⑥ ごみの適正処理			
基本目標5	5-① 環境意識の醸成			●
	5-② 学びと活動体験機会の充実			●
	5-③ 活動の担い手となる人材育成と活動支援			●
	5-④ 様々な主体と活動の環の拡大			●

目標

- 1 調布の特徴であり、かけがえのない環境資源である貴重な緑と水を引き続き保全します。
- 2 豊かな緑と水により、多種多様な生きものの命の育みを守ります。

主な事業の進捗

重点プロジェクトの事業内容と取組結果	
崖線樹林地等の保全管理	・ 保全地区周辺に対してオープンハウスを実施し、深大寺元町特別緑地保全地区の保全管理計画を策定 ・ 入間町2丁目緑地東地区の測量図面と樹木台帳を作成
協働による緑の保全のための仕組みづくりの検討	・ 雑木林連絡会で情報交換を実施 ✓ 開催回数 3回 ・ ホームページにて協働団体のPR
崖線樹林地の保全管理計画の策定と見直し	・ 保全地区周辺に対してオープンハウスを実施し、深大寺元町特別緑地保全地区の保全管理計画を策定
雨水浸透施設・雨水貯留施設の設置及び雨水利用の推進	・ 排水設備計画確認申請時に、申請者に浸透設備の設置を依頼し、設備を設置(下水道課) ✓ 浸透ます 2,562個 ✓ 浸透トレンチ 1,099m ・ 既存の一般家屋への雨水浸透ますの設置を実施(環境政策課) ✓ 浸透ます 5基 ・ 公園の公衆トイレ改築工事に伴い、雨水浸透施設を設置(営繕課) ✓ 6件
深大寺・佐須地域農の風景育成地区における農の風景を継承する取組の推進	・ 公有地化した土地を活用し、市民及び公有地近隣の小学校児童を対象に田植え体験、稲刈り等の農業体験をマインズ農業協同組合等との協働により実施(環境政策課) ✓ 農業体験参加者数 合計1,120人(市民768人 学校関係者352人) ・ 令和6年7月1日に、深大寺・佐須地域北・南農業公園の供用開始。南農業公園においては、開園時間内に作業員常駐の運営体制で実施(緑と公園課) ・ 農業公園イベントを実施(緑と公園課) ✓ 3回 67人

重点プロジェクトの事業内容と取組結果

自然環境や生物調査の実施・把握と結果の公表

- ・ 調布市環境モニター活動において、多摩川の植生調査を実施
※ 秋の植生調査（令和6年9月30日）はスタッフのみで実施
- ・ 湧水調査については概ね3年に1回調査を実施
※ 令和4年度に実施したため、令和6年度未実施



深大寺・佐須地域南農業公園



植生調査の様子

目標

- 1 省エネ・節電行動を市民・事業者・市が積極的に行うとともに、再生可能エネルギー由来の電力の選択等を進めていきます。
- 2 進行する地球温暖化に伴う気候変動の適応への取組を進めます。
- 3 貴重な環境資源を維持・保全するとともに、生産・流通・廃棄の過程で発生する二酸化炭素排出量の削減を図るため、更なるごみの発生抑制に取り組みます。

主な事業の進捗

重点プロジェクトの事業内容と取組結果

東京都等の補助事業に関する情報提供（例：電気自動車・プラグインハイブリッド自動車・燃料電池自動車導入、集合住宅等への充電設備設置、蓄電池、ゼロエミッション住宅、高断熱窓等

- 市報・市ホームページ等において、地球温暖化対策に資する補助金等について情報を提供
 - ✓ 調布市 調布市省エネ設備等導入補助事業
 - ✓ 東京都（クール・ネット東京） 補助金
 - ✓ 環境省 二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金等

調布市省エネ設備等
導入補助事業チラシ



住宅の省エネルギー化事例の効果の把握と情報発信

- 地球温暖化対策に資する住宅、特に断熱関連の情報について情報を提供（環境政策課）
 - ✓ 環境省 みんなでおうち快適化チャレンジ
 - ✓ 東京都（クール・ネット東京）
 - ✓ 災害にも強く健康にも資する断熱・太陽光住宅普及拡大事業
- 問合せ等に対応すると共に、国や都の事業について情報を発信（住宅課）
 - ✓ 住まいのサポートガイドブック（毎年発行）において、東京都実施事業の案内ページを掲載

重点プロジェクトの事業内容と取組結果	
再生可能エネルギー由来の電力の選択に関する普及啓発（例：東京都「『みんなでいっしょに自然の電気』キャンペーン」等）	国や東京都の事業等について市報・ホームページ等により情報発信を行い、再エネの普及拡大を推進
再生可能エネルギーの比率の高い電力調達の検討	- 高圧受電施設における「調布市電力の調達に係る環境配慮方針」に基づく電力調達を継続。公共施設の屋根貸しによる太陽光発電の電力を活用し、地産地消型再生可能エネルギー100%事業を継続。農の家や公衆トイレにおいて、みんなでいっしょに自然の電気（みい電）を活用し、再エネ100%電力を継続購入。46公共施設において再エネ100%電力を導入（環境政策課） - 今後改築や大規模改修などを行う学校において、再生可能エネルギー設備の整備を検討（教育総務課）
自立分散型エネルギーシステムの普及啓発	- 地球温暖化対策に資する補助金等について情報を提供 ✓ 東京都（クール・ネット東京） スマートエネルギーエリア形成推進事業 ✓ 環境省 地域レジリエンス・脱炭素化を同時実現する避難施設等への自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業 再エネ等由来水素を活用した自立・分散型エネルギーシステム構築事業
調布駅周辺での自立分散型エネルギーシステムの導入検討	- 令和3年度に実施した分散型エネルギーシステムの導入可能性調査の結果を踏まえ、関係課等との意見交換を実施（まちづくり推進課） - 地球温暖化対策に資する補助金等について情報提供を実施（環境政策課） ✓ 東京都（クール・ネット東京） スマートエネルギーエリア形成推進事業 ✓ 環境省 建築物等の脱炭素化・レジリエンス強化のための高機能換気設備導入・ZEB化支援事業 脱炭素イノベーションによる地域循環共生圏構築事業
シェアサイクル事業	- 官民連携事業として、市民や来訪者の利便性・回遊性の向上のため、シェアサイクルステーションの設置や啓発を推進 ✓ 令和5年8月29日付【都市再生整備計画調布市シェアサイクル事業推進地区の策定】 ✓ 令和6年3月21日（都立神代植物公園・都立武蔵野の森公園・都立野川公園）に設置 ✓ 令和5年12月13日に民間ステーション深大寺（深大寺バス停）設置 ✓ 令和6年3月31日時点 合計94箇所設置 ✓ 令和7年3月31日時点 合計112箇所設置

重点プロジェクトの事業内容と取組結果

市ホームページ，SNS，調布FM等による情報発信	市ホームページ，市報，X（旧Twitter），調布FM等にて，地球温暖化対策に係る様々な情報を提供 ✓ 情報発信回数 99回
水害対応に関する個別計画の策定と対策実施	主に，令和元年度台風19号で発生した調布幹線及び根川雨水幹線流域の大規模な浸水被害を受け対策に取り組む。当該地域の被害軽減に向けた対策をまとめた「下水道浸水被害軽減総合計画」の策定や「内水ハザードマップ」を作成 ✓ 雨水管理総合計画策定に令和5年度から着手（令和5年度～令和7年度） ✓ 根川排水区浸水対策事業の基本設計を実施（事業主体は狛江市）
食品ロス削減に関する普及啓発	食品ロス削減月間の10月に食品ロス削減の取組を掲載（文化生涯学習課） ✓ ごみ対策課広報誌「ザ・リサイクル」，市HP等で広報（資源循環推進課） ✓ 市報ちょうふ10/5号で食品ロス削減の取組を広報（文化生涯学習課） ✓ 事業者と連携し，てまえどりポップを作製及びセブンーイレブン等への掲示（資源循環推進課・文化生涯学習課）
CHOFUプラスチック・スマートアクションの推進	- プラスチックごみの減量や海洋流出防止に繋がる市独自の取組を実践するため，職員による率先行動や市民・事業者と一体となった行動により取組を推進。（環境政策課） - 使用済みコンタクトレンズ空ケース及びインクカートリッジの回収を実施。使用済みコンタクトレンズ空ケース及びインクカートリッジの回収ボックスを再利来留館と神代出張所（コンタクトレンズのみ）増設したほか，本庁舎窓口にペットボトルキャップ回収容器を設置（資源循環推進課）



ザ・リサイクルジュニア第5号



ペットボトルキャップ回収容器

重点プロジェクト③

みんなが主役環境を学んで楽しむプロジェクト

目標

- 1 市が発信する環境情報をもとに全ての人が、積極的にその情報を共有します。
- 2 環境教育・環境学習を通じて、全ての人が楽しみながら環境を学び、持続可能な社会づくりに向けて進んでいきます。

主な事業の進捗

重点プロジェクトの事業内容と取組結果

ICTを活用した新たな環境情報発信方法の検討

- ・ Zoomを活用したオンラインイベントを実施
 - ✓ オンライン環境学習教材の配信
 - ✓ 小学生を対象にした気候変動を絡めた環境学習教材をオンライン（YouTubeチャンネル等）で年1回配信

小中学生への環境活動機会の提供

- ・ 調布こどもエコクラブを開催
 - ✓ 開催回数 4回，参加者数 51人
- ・ 多摩川自然情報館の月別イベントを開催（中学生以下を対象）
 - ✓ 開催回数 8回，参加者数 88人



調布こどもエコクラブの様子



多摩川自然情報館のイベントの様子

重点プロジェクトの事業内容と取組結果

幅広い市民を対象とした環境イベントの開催

- 第52回調布市環境フェアを開催
 - ✓ 開催日 6月8日, 参加人数 延べ約4,400人



第52回調布市環境フェアの様子



第52回調布市環境フェア チラシ

- 緑と花の祭典を春と秋の2回開催（緑と公園課）
 - ✓ 緑と花の祭典（春）は, 4月27日（土）, 28日（日）に開催
 - ✓ 緑と花の祭典（秋）は, 10月26日（土）, 27日（日）に開催



緑と花の祭典の様子

重点プロジェクトの事業内容と取組結果

雑木林ボランティア講座の実施による人材育成講座の実施

- 雑木林ボランティア講座を開催
✓ 開催件数 6回



雑木林ボランティア講座
チラシ

多摩川自然情報館におけるボランティア解説員養成講座の充実

- 多摩川自然情報館におけるボランティア解説員養成講座を開催
✓ ボランティア解説員人数 44人

環境活動交流会の開催

- 第16回環境活動交流会を開催
✓ 開催回数 1回
「地球にやさしい都市農業と新しい暮らし」をテーマに開催



第16回環境活動交流会
チラシ

広域的な環境保全活動に向けた他自治体等との連携

- ✓ 多摩川流域協議会への参加（国土交通省主催）
- ✓ 野川流域連絡会への参加（北多摩南部建設事務所主催）
- ✓ 野川流域環境保全協議会への参加（流域自治体）
- ✓ 環境マネジメントシステムの内部環境監査の相互監査を、昭島・府中市・日野市と連携し実施
- ✓ オール東京62「気候変動適応策研究会」や「市民協働型温暖化対策実行計画推進研究会」への参加